

# 産出レベルから見る中国人日本語学習者の外来語習得 ー英語学習経験による影響からー

謝彩婷

東京学芸大学大学院教育学研究科

m161425x@st.u-gakugei.ac.jp

## 1. はじめに

### 1.1 「外来語」とは

本研究で対象としている「外来語」とは、英語語源の語彙で、カタカナで表記されるものである。

### 1.2 中国人日本語学習者の現状

中国人の多くは大学から日本語の学習を始める。2010年に実施された言語政策のため、小学校三年生から英語教育が始まった。すなわち、日本語を学習する前に、中国人はすでに約10年の英語学習歴を持っている。

大島(2003)は英語教育で正しいインテイクのプロセスを提供することによって、英語というアウトプットが期待できると述べ、英語学習が外来語、特に英語由来の外来語の学習に役立つ可能性を示している。

英語がグローバルな共通語となる傾向が見られ、実際に現在の中国人は両親の期待に応じて、子どもの段階で英語を学習していることも多く見られる。堀切(2013)は、英語の学習が外来語の障害となる認識もあるが、この言語背景においては、外来語に対する否定的な心理へと繋がっていることは想像に難しいと述べている。

### 1.3 研究目的

(1)英語学習歴が外来語の習得(表記・意味)にどのような影響を与えているかを明らかにすること。

(2)中国人JFL学習者により適した学習方法について検討すること。

## 2. 先行研究

### 2.1 L2とL3との関係

大和・玉岡(2005: pp. 229-267)は、中国人日本語学習者を対象とした外来語処理への英語レキシコンの影響についての調査では、「中国語母語話者の場合、母語である中国語(L1)の言語知識のほかに、大学受験などの際に勉強した英語(L2)の知識及び現在学習している日本語(L3)の知識が存在する。(中略)。これら3種類の語彙知識は完全に独立して機能するわけではなく、

他の言語のレキシコンの語彙も同時にある程度活性化されるといわれている」と述べている。

## 2.2 英語と英語由来の外来語との関係

王 (2007) は外来語における原語音韻 (イギリス英語中心) の日本語化規則についての研究では、英語音韻と仮名との対応関係を知っておけば、英語を通じてその意味を調べることができると考えている。これは英語と外来語の一定の関係性を示しており、英語語彙知識は外来語の習得に参考できるのではないかと考えられる。

## 3. 調査の流れ

### 3.1 調査目的

- (1) 英語学習経験が長い、英語語彙量が 4000 語以上と考えられる日本語学習者の日本語外来語の習得状況を把握する。
- (2) 日本語学習者は英語を参照しながら外来語を覚えるという新しい学習方法について検証する。

### 3.2 調査協力者

中国の大学生、年齢は 20 代前半、専攻はビジネス英語、英語学習歴は 10 年以上、英語語彙量は 4000～5000 語と考えられ、日本語のレベルは初級である。

### 3.3 調査概要

大学生用の回収率は、語彙テストと調査アンケートとともに、30% (100 部) である。本稿は語彙テストの調査結果を中心に、論を進める。

### 3.4 調査計画

#### 3.4.1 語彙テスト

12 語<sup>1</sup> を載せている語彙リストを協力者に配り、二回目のテストの場合は参考資料<sup>2</sup> も配り、一定 (一回目: 10 分、二回目: 20 分以内) の学習時間を与えた後、語彙テストを行う。

一回目で使われた語彙リストでは、外来語と中国語訳が付いている。二回目で使われた語彙リストでは、外来語と中国語訳と原語である英語も付いている。

#### 3.4.2 調査アンケート

協力者の外来語学習方法を探るために、本稿で設定した質問は以下のとおりである。

質問 1: 普段はどのように外来語を学習しますか?

質問 2: 原語である英語を参照しながら外来語を暗記する経験はありますか?

あつたら、英語をどのように利用しますか? (発音・表記・意味の暗記)

質問 3: 二回目のテストで使った「外来語の日本語化規則」は外来語の学習に役立てると思いますか?

## 4. 調査結果分析

### 4.1 語彙テスト

#### 4.1.1 *t*検定

*t* 検定で分析した結果、学習者は一回目のテストより二回目のテストのほうがよくできている。  
 (表記 (項目 1) :  $t(10) = -4.161$ ,  $p < .01$ 、意味(項目 2) :  $t(10) = -2.192$ ,  $p < .01$ 、総得点 :  
 $t(10) = -4.299$ ,  $p < .01$ )

考えられる理由は二つがある。まず、二回のテストの内容は違うが、問題の形式は同じである。学習者は二回目のテストをする際に、もう問題に慣れたかもしれない。次に、二回目の参考資料を読む際に、「なるほど、そんな方法もあったか」「これがあれば便利だね」など、英語を参照ながら外来語を覚える方法に納得したようなフィードバックがもられた。

#### 4.1.2 誤用分析

表1 語彙テストにおける誤答例 ( ( ) の中は誤答数<sup>3</sup>)

	誤答例 (誤答数)	各グループ誤答数	合計
一回目	メディア (10)、スペース (5)、シート (5)、ボーナス (4)、ビタミン (3)	27	92
	タイミング (14)、コントロール (13)、ベテラン (11)、エレガント (9)、 トラブル (7)、ルーズ (5)	59	
	インフレ (6)	6	
二回目	データ (3)、デコレーション (3)、ミス (2)、インターホン (1)、キャリア (1)	10	45
	ジャーナリスト (13)、メッセージ (4)、タイトル (3)、オーバー (2)、ストレス (1)	23	
	デモ (4)、マスコミ (8)	12	

表1から分かるのは、以下の3点である。

- (1) 二回のテストにおいて、英語の発音と差異が大きい語彙 (例：デコレーション) における誤答が最も多く (一回目：64%、二回目：51.1%)、誤答数の半分以上示している。
- (2) 縮約された語彙 (マスコミ) の誤答数は二回のテストにおいてあまり差が見られない。
- (3) 英語の発音との類似性に関わらず、二回目のテストにおける誤答数<sup>3</sup>は一回目のより半分以上減ったこと (一回目：92語、二回目：45語) と、長音 (47.1%)、濁音 (33.3%)、「レ」 (19.6%) の誤用がよく見られる。

### 4.2 調査アンケート

調査協力者の回答を整理すると以下のようなものである。

- (1) 普段の外来語学習方法について

「特にストラテジーは使っていません。」(18人、6割)

(2) 新しい学習方法について

否定的評価：「この規則を覚えるまでどのくらい時間かかるが心配です。」

「元々国際音声記号に苦手だから、この規則を覚えるのは私には無理だと思う。」

肯定的評価：「外来語の日本語化規則が覚えれば外来語を暗記することがもっと簡単になる。」

## 5. 今後の予定

現在中国の学校で使用している日本語教科書は統一されていないし、外来語の横に英語原語を載せている場合と載せていない場合もあることから、実際の日本語教育現場に外来語はどのように教えられているかについて調査する必要があると考えている。これから中国の日本語教師に外来語の教え方についてアンケート調査をする予定である。

## 注

1) 本調査で使用されている外来語は、『日本語能力試験出題基準 改訂版』(2016/11/01 アクセス)・『日本語能力試験N1 に出る重要単語集』(2010)・『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N2』(2015)・『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N1』(2015)・『新訂 品詞別・1級～5級 1万語語彙分類集』(2014)、以上五つのテキストから1級・2級又はN1・N2の語彙を抽出し、出現頻度が高い語彙である。二回のテストそれぞれ異なる12語を使用し、計24語である。

2) 参考資料は王(2007)の研究に基づいたものであり、外来語の日本語化規則表は筆者が作成したものである。

3) 誤答数：延べ数

## 参考文献

- 大島希巳江(2003)「外来語研究の一考察：英語教育との関わり」『国際基督教大学学報 I－A 教育研究』45, pp. 151-158, 国際基督教大学日本語教育研究センター
- 王度(2007)「外来語における言語音韻(イギリス英語中心)の日本語化」『福井工業大学研究紀要』第37号 pp. 83-92
- 陣内正敬(1998)「日本語学習者のカタカナ語意識とカタカナ語教育」『言語と文明』第11巻 pp. 47-60
- 大和裕子・玉岡賀津雄(2005)「中国人日本語学習者による外来語処理への英語レキシコン影響」『レキシコンフォーラム』第6巻 pp. 229-267
- 中山恵利子(2006)「日本語学習者の外来語意識－日本語教育における外来語を考える－」『外来語研究の新展開』pp. 207-223